

揃えられたスリッパ

岐阜県 西可児中学校 2年 荒松 怜弥

僕が学校でトイレに行くと、スリッパが揃っていないことが多いです。しかし、一日の授業が終わりトイレに行くと、スリッパが揃えられているのです。僕はそのことについて、あまり気にしていなかったけれど、それが毎日続いていることにある日気がつき、誰がやってくれているか気になりました。

ある日トイレに行くと、日直の人がいました。その人は自分のスリッパをしっかりと揃えてから、ほかの人のスリッパも揃えていました。

トイレのスリッパを揃えることは、日直の仕事には含まれていません。だから揃えてくれていた人は、ほかの人のことを大切にすることができる、思いやりのあるすごい人だと思いました。

さらにその人は、教室を移動するときみんなの机列を確認し、整えてくれ、休み時間にはごみなども拾っていました。僕はその人に「ありがとう」という言葉が言えなかったので、次にその行動を見る機会があったら、しっかりと「ありがとう」と言えるようにしたいです。

それからしばらくたって、学校の道徳の授業で、トイレのスリッパを揃える習慣のある人ついでの話がありました。その話とは、「ある男の人が、生まれてから大げさなことは何もしていないけど、毎日どこに行ってもトイレのスリッパだけはしっかりと揃えている」という内容でした。

僕はその授業を通して、その男の人もしごいと思ったけれど、仕事にはないことをやってくれている、日直の人のすごさも同時に感じました。

そして、日直が僕のグループに回ってきました。僕は帰りにトイレに行き、スリッパを揃えました。その人のおかげで、仕事にはないことを思いやりの気持ちで行えました。なので、その人には感謝をしています。

トイレのスリッパを揃えるという行動は、小さく、気づかれることもなかなかないかもしれませんが、その行動のおかげで環境が整えられて、気持ちよくトイレを利用することができています。

食事をしにいった店などで、トイレのスリッパが揃えられていたら、誰でも気持ちよくトイレを利用できると思います。そんなときは、揃えてくれた人にお礼を言うことはできないけど、お礼の気持ちをもって、次に使う人のためにスリッパを揃えることは誰にでもできると思います。

そんな行動が僕の中学校にも広まってきていて、トイレを誰もが気持ちよく利用できる中学校になっていると思います。

このような小さな親切は、思いやりの気持ちをもっている人にしかできない、人に尽くすという行動だと思います。